

7月30日（土）「香港植樹」を実施

生物多様性の向上を目指して、自生する12種1,500本を植樹します

公益財団法人イオン環境財団（以下、当財団 理事長 岡田 元也 イオン株式会社取締役兼代表執行役会長）とイオンストアーズ香港は、7月30日（土）、「香港植樹」を実施します。

植樹地である大欖郊野公園（タイラムカントリーパーク）は、54km²の敷地内に7つの貯水池をもち、九龍半島への水の供給源として機能しているほか、複数のトレイルコースやキャンプ場などによって、市民に親しまれている公園です。かつては草がほとんど生えず土壌流出がすすむ地域でしたが、長年の植林によって豊かな森林地帯となり、鳥類や昆虫、魚類、両生類など様々な野生動物の生息域となっています。

しかしながら、土壌侵食を防ぐ目的で植林された外来の樹種が、在来の樹種の成長を妨げるようになり、野生動物にも影響を与えていることから、近年は、森林の再生に向けて、老化した外来樹種を伐採し、新たに地域に自生する樹種を植樹する活動がすすめられています。

今回の植樹は、香港特別行政区政府の漁農自然護理署による「郊野公園植林優化計画」の一環として、NGO団体の香港地球之友（Friends of the Earth (HK) Charity Limited）と生物多様性の保全や生態系サービスなど自然が持つ価値の向上を目的に実施するものです。

当日から、公園内に、計150名の地域ボランティアの方々とともに、花や実をつけるクチナシ・ユカン・タイワンツバキなど地域に自生する12数種1,500本を植樹します。

当財団は、今後も、次世代にみどり豊かな自然環境を引き継ぐため、植樹活動をはじめとする環境活動に積極的に取り組んでまいります。

記

日時	2022年7月30日（土） 9:00～12:05		
場所	大欖郊野公園内		
本数	1,500本		
樹種	クチナシ・ユカン・タイワンツバキなど地域に自生する12種		
主催	Friends of the Earth (HK) Charity Limited（香港地球之友・NGO）		
共催	公益財団法人イオン環境財団		
協力	イオンストアーズ香港		
主な出席者	在香港日本国総領事館	大使兼総領事	岡田 健一 様
（予定）	Friends of the Earth (HK) Charity Limited	董事局副主席	葉 廣濤 様
	Friends of the Earth (HK) Charity Limited	董事局委員	王 卓粵 様
	Friends of the Earth (HK) Charity Limited	行政総裁	洪 藹誠 様
	イオンストアーズ香港	董事総経理	菅原 功
	イオンクレジットサービス（アジア）	企業策劃部総経理	新舎 康二
	イオントップバリュ香港	董事総経理	岸 克樹

以上

ご参考

【公益財団法人イオン環境財団】

1990年「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、岡田卓也（イオン株式会社名誉会長相談役）により、日本で初めて地球環境をテーマにした企業単独の財団法人として設立されました。

設立以来、国内外の多様なステークホルダーの皆さまと連携し、植樹を主な事業として環境活動に積極的に取り組む非営利団体への助成や、環境人材の育成を目指した環境教育など様々な活動を実施してきました。

今後は持続可能な地域の実現を目的に、各事業をさらに進化させ地域の皆さまと協働して森づくりに加え、地域づくり、人づくりにも取り組み、新たな「イオンの里山」の構築を目指します。

＜イオン環境財団ホームページ <https://www.aeon.info/ef/>>

【植樹活動】

国内外の地域行政と協力し、自然災害や伐採などで荒廃した森の再生を目的に、アジアを中心に世界各地のボランティアの皆さまとともに植樹活動を継続実施してまいりました。これまでに世界11か国で植樹を行い、イオン全体の累計植樹本数は1,241万本を越えました。

（2022年2月末時点）

【香港での過去の活動】

【植樹】

2007年に、山火事により60,000本の木々が消失した「大欖郊野公園」で、野生生物保護を目的に植樹を実施し、地域ボランティア350名が20,000本を植えました。

【太陽光発電システム寄贈】

2018年から2019年に、再生可能エネルギー活用の啓発と普及および環境教育を目的として香港の小中学校6校に、太陽光発電システムを寄贈しました。

本事業は、2018年には「日中平和友好条約締結40周年」の周年事業、2019年には日本国外務省「2019日中青少年交流記念事業」にそれぞれ認定されました、